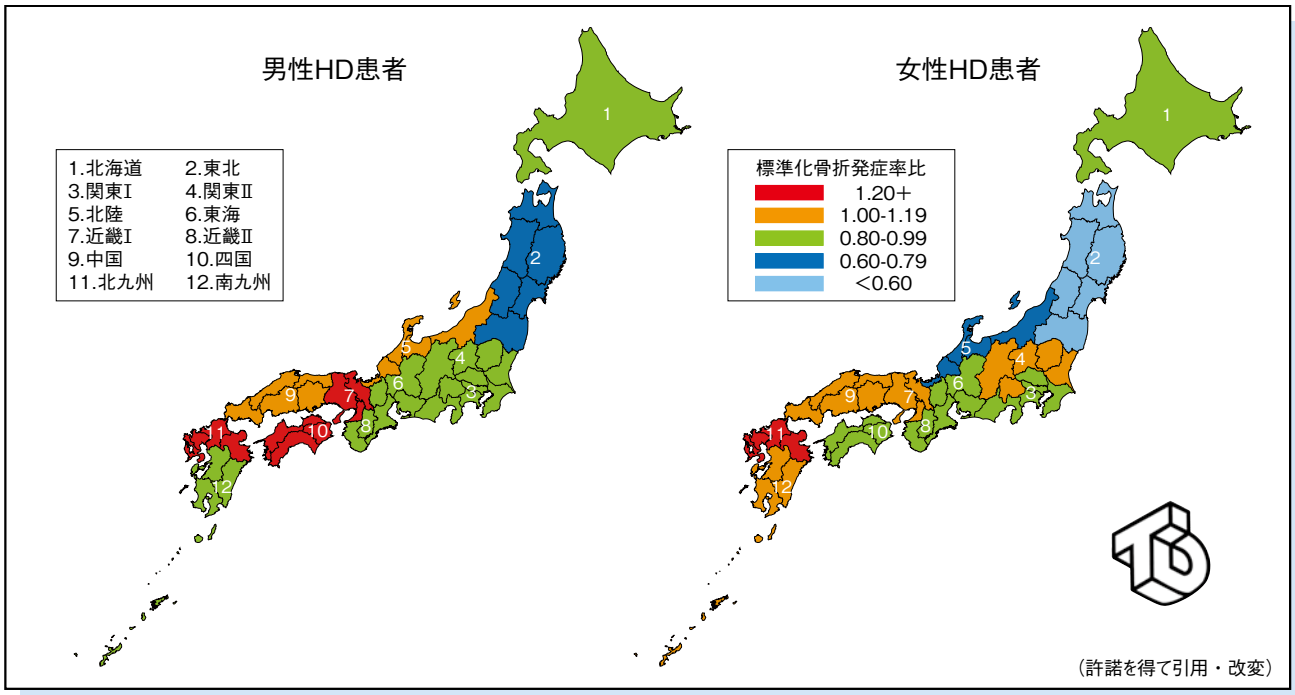
(6) わが国の血液透析患者における大腿骨頸部骨折発症の地域分布（図表6）

論文の概要

2007年と2008年の調査を用いて、血液透析患者の全国平均と比べた地域別の標準化大腿骨頸部骨折発症率比を男女別に算出し、一般住民で認められる地域差が血液透析患者でも認められるかどうかを検討した報告である。

タイトル：Regional variation in hip fracture incidence among Japanese hemodialysis patients
著者：Wakasugi M, Kazama JJ, Wada A, Taniguchi M, Tsubakihara Y, Iseki K, Narita I
収載：Ther Apher Dial 2014；18（2）：162-166
対象：2007年末に週3回の施設血液透析を行っていた大腿骨頸部骨折の既往のない128,141人
要因：地域（北海道、東北、関東Ⅰ、関東Ⅱ、北陸、東海、近畿Ⅰ、近畿Ⅱ、中国、四国、北九州、南九州）
対照：全国平均
アウトカム：男女別、標準化大腿骨頸部骨折発症率比
結果：血液透析患者の標準化大腿骨頸部骨折発症率比は、男性0.71 ～ 1.29、女性0.49 ～ 1.36と地域により大きく異なり、男女とも、西日本で標準化骨折発症率比は高く、東日本で低いという一般住民と同様の地域分布を認めた。



（許諾を得て引用・改変）

解説

本研究は、平成21年度日本透析医学会統計調査委員会公募研究に採択された研究課題である。
わが国の一般住民では、年齢で調整した標準化大腿骨近位部骨折発症率比は、西日本で高く東日本で低いことが報告されている。一番新しい全国調査でも、その差は小さくなってはいるが、今なお西高東低の地域差が存在する（Orimo H, et al. Osteoporos Int. 2016;27:1777-84）。地域差の原因は長年不明である。血液透析患者の骨折発症には、一般住民と共通のリスク要因と、骨ミネラル代謝異常など腎不全患者特有の要因が関与していると考えられるが、本研究で一般住民と同様の地域差を血液患者でも認めたことは、一般住民と共通の何らかの要因が骨折発症に強く影響している可能性を示唆する。本研究からその要因を明らかにすることはできないが、血液透析患者の骨折発症リスクを検討することは、長年、不明であったわが国一般住民の骨折地域差の原因解明に貢献できる可能性を示した点で意義がある。そして、骨ミネラル代謝異常など腎不全患者特有の要因にばかり目を向けがちになる私たちに、一般住民と共通のリスク要因の重要性を示した点でも意義がある論文である。